



# オトナのふるさと学習 月刊このへんだいすき

令和元年  
11月号

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶  
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ  
ずっと「このへん」なあなたも、最近「このへん」なあなたも、  
読みればたちまち、「このへん だいすき」に

作 セルジュ・タカハシ

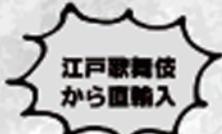
ドキドキノ



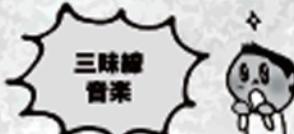
江戸歌舞伎から直輸入。  
「このへん」育ちの三味線音楽を  
昭和の政界、財界、花柳界で  
日本中が習いたがったワケ。



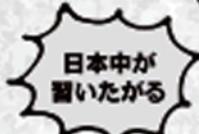
雄物川町に今も伝わる伝承によれば、江戸歌舞伎で一番の名優市川團十郎の弟子泉団之丞が安政年間に雄物川に来て教えたものが広まったという。



江戸歌舞伎  
から田舎入



三味  
音楽



日本中が  
騒いたかる

離物川の流域や秋田土崎まで広がり  
流行した岡本は、次第に洗練され、  
お座敷芸として全国の花柳界で流行。  
旦那衆もこぞって賀い大ブームに。

お座敷ではお姫さんと一緒に、岡本を聴るのがトレンドになり、名だたる政治家や財界人などが、こそりと名取になつて、岡本は、全国区の芸能に巻きつめました。

當時生産日本一の原内藤山から暮末に迎えたシルバーラッシュで、人と金を呼び寄せた影響だと指摘する研究者もいます。

その魅力を見出しえ流傳させ、昭和の横手のお医療に「デビュー」させたのが、岡本一寸平でした。

岡本新内として東京の舞台で披露されると、その歌詞や曲調が人気となり、たちまち全国の花街で大流行します。

その曲は岡本新内といいます。発祥の地とされる遊廓町のいい伝えによれば、江戸歌舞伎の頂点に立つ市川團十郎の弟子、東団之丞が、幕末の安政年間に教えて大流行したものといわれ、唄と踊りの一座で各地を公演し、「岡本つゝ」と親しまれました。なぜ江戸歌舞伎が「このへん」に直接伝わったのかについては、

卷之三



幕末に「このへん」に伝わった「岡本新内」は江戸歌舞伎直輸入。全国の花柳界で昭和のおじさまがたに大流行。その伝統は今も。

